

基礎分野

学科目 (単元)	ロジカルシンキングと クリティカルシンキング	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	看護場面だけでなく、日常生活においてもさまざまな情報を取得し、それを理解・解釈し、実際の行動に移すことが必要になっている。そのためには、取得する情報を正確に理解・解釈する必要がある。情報を正確に理解・解釈し、さらにそれを他者に伝えるにはどのようにすべきなのだろうか。 また、問題解決には、「物事を筋道立てて考える力」である論理力（ロジカルシンキング）が必要である。 本科目は、情報を正確に理解し、批判的・客観的視点を持って解釈した上で、他者に伝えるようにできるようになること、論理的に文章化する能力を養うことを目的とする。						
到達 目標	・ 取得した情報を正確に理解し、批判的・客観的視点を持って解釈できるようになる。 ・ 論理的思考に基づいた文章表現ができるようになる。 ・ 取得した情報を、論理的に他者に伝えられるようになる。						
授 業 計 画	1. ガイダンス この科目で行うこと 論理とは何か、批判的思考とは何か 2. どのような情報が日常生活にあるのか 3. 日常生活で情報を取得することの意味とは 4. 情報を受け取る手段とその特徴 5. 取得情報は、本物か？ 6. 批判的に情報を観察するⅠ 7. 批判的に情報を観察するⅡ 8. 観察した情報をまとめてみるⅠ（論理的な文章にするには） 9. 観察した情報をまとめてみるⅡ（論理的な文章を書いてみる） 10. まとめた情報をさらに観察してみるⅠ（自分の論拠は正しいか） 11. まとめた情報をさらに観察してみるⅡ（自分の論拠を補強するには） 12. 他者が理解できるよう言語化するⅠ 13. 他者が理解できるよう論理的に言語化するⅡ 14. まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育 方法	講義の一方だけでなく双方向的な「アクティブ・ラーニング」的な授業方法も取り入れ個人・グループワークも併せて実施する予定です。						
履 修 上 の 助 言	生活する上でどのように情報を取得しているのかに注意を払っておきましょう。 講義を聞いて理解するだけではなく、実際に書いてみる、そして話してみるという作業に対して積極的に取り組むという態度がなによりも大切です。						
テ キ ス ト 参 考 書	特に指定しない。毎回、プリントを配布する。						
評 価 方 法	レポート(提出状況、および内容)が 70 点、試験 30 点で、合計 100 点満点で採点します。 レポートなどについては、執筆内容により点数化を行います。 合計得点が 60 点以上を合格とします。						

学科目 (単元)	医療情報リテラシー	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目 的	近年、看護業界の情報化対応が急速に進んでいる。そのため、学生の立場からすると学習すべき内容の更新・増加速度が著しく、特に実践的な知識に関するものは、数年前のテキストが全く役に立たない状況にある。この傾向は当面続くことが予見できる。そのため、本科目では基本的な ICT 機器の活用を学ぶ。また、情報倫理をふまえ、多くの情報の中から必要な情報・信頼性のある情報を絞り込み、情報の価値を高めることが出来る能力、看護実践に活かせる能力を養う。						
到達 目標	・情報処理の基礎を理解する。 ・Excel・PowerPoint の基礎 を理解する。 ・Excel・PowerPoint の基礎 を活用する。 ・医療における情報倫理、信頼性について考察する。 ・電子カルテ等の医療情報システムの活用法を理解する。 ・データ分析基礎を理解する。						
授 業 計 画	1. ハードウェア 2. ソフトウェアとマルチメディア、Excel の基礎 I 3. Excel の基礎 II 4. PowerPoint の基礎 I 5. PowerPoint の基礎 II 6. システム構成 7. ネットワーク 8. 情報倫理と情報セキュリティ 9. データベース 10. アルゴリズムとプログラミング 11. 医療情報システムの現状 I 12. 医療情報システムの現状 II 13. データ分析基礎 I 14. データ分析基礎 II 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教 育 方 法	一般教室での座学講義と情報処理室での実習						
履 修 上 の 助 言	ちょっとした計算を行うための共同作業や、PC 実習の仕上げのために、仲間うちで教え合ったり等クラス内での協力が不可欠になるので、近くの席の学生と一緒にうちとけて学習できる環境を作っておくと便利である。						
テ キ ス ト 参 考 書	令和 07 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 (技術評論社) 30 時間でマスター Excel2021 (実教出版) 30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021: Windows10 対応 (実教出版) 事例でわかる情報モラル 2025 (実教出版)						
評 価 方 法	筆記試験 100% 出題範囲を事前に告知する。						

学科目 (単元)	看護と生化学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	この科目の目的は、私たち自身の体の仕組みを化学的に理解することです。 たとえば、「あなたが食べたごはんは体の中でどのように変化し、どのような役割を果たし、そしてどこから排泄されますか？」というような問題を化学的に説明しようとするものです。 体内で、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルがどのような役割を担っているのかを化学的に理解することを目的とします。						
到達目標	・体を構成している物質を化学的に理解する。 ・五大栄養素（糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラル）の役割を化学的に理解する。 ・五大栄養素間の関係を化学的に理解する。 ・生命維持のしくみを化学的に理解する。 ・1～4の内容を患者さんの理解度に合わせて説明することができる。						
授業計画	1. この科目の概要・必要とされる化学の知識・代謝とは 2. 酵素（役割・性質・臨床診断と酵素） 3. 糖質代謝 4. 〃 （概要・解糖のしくみ） 5. 〃 （グリコーゲンの合成と分解・糖新生） 6. 脂質代謝 7. 〃 （概要・脂肪酸の分解・ケトン体の代謝） 8. 〃 （コレステロール・エイコサノイド・リポタンパク質） 9. タンパク質とアミノ酸の代謝 10. 〃 （役割と概要） 11. 〃 （尿素回路・炭素骨格の代謝） 12. 核酸・ヌクレオチドの代謝・遺伝情報 13. エネルギー代謝の統合と制御 14. ビタミンとその欠乏症 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義と板書（プリント）を中心に進め、前期中に小テストを3回実施する。						
履修上の助言	生化学という科目名の通り、生物と化学の両方に深く関連する科目です。各自、高校で履修した「生物基礎」の細胞、クエン酸回路、遺伝子の単元及び「化学基礎」の元素、化学結合、高分子化合物の単元を中心に復習しておいて下さい。						
テキスト 参考書	テキスト ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能2 臨床生化学 メディカ出版 参考書 はたらく細胞 清水茜 講談社						
評価方法	定期試験結果＋平常点（欠席・遅刻などの状況、授業態度など）。 小テストの点数は評価に含めない。						

学科目 (単元)	教育学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	後期
目的	人々の心とからだの健康を支援するために、看護師は患者の理解と指導の重要な役割を担っている。患者を理解し、指導を行うには、対象を理解し、様々なスタンスで教育的な関係を構築し、適切な方法で指導内容を提示できる力量やプレゼンテーション能力が必要となる。 また、生涯学び続ける看護師という観点から、自ら学ぶ力、実践の現場で同僚と共に新たな知識や技術を生み出す力を育むことも求められる。そのための基盤として、教育学の基本と教育方法、教育実践の形態などを学習する。 教育学は、基礎看護学の「指導技術」の重要な基礎をなす科目である。						
到達目標	・様々な教育的な関わり方、対象者へのアプローチの方法を理解し、看護実践の場で、個々の状況と対話しつつ、対象者に応じた適切な教育・指導を行う。 ・時代の変化の中で教育や学校が担ってきた役割をふまえて、知識基盤社会において求められる、自ら学び続ける姿勢を身につける。						
授業計画	1. 「教育」とは何か(第2章)、教育における技術的实践と省察的实践 2. <教える><学ぶ>関係性(第6章) 3. 自己指導力をどのように育てるか(1) - 臨床的生徒指導の三つの類型 4. 自己指導力をどのように育てるか(2) - 体罰、教育虐待を考える 5. 特別ニーズ教育、インクルーシブ教育(第17章) 6. 教育の組織化-学校(第5章、第10章) 7. 教育の場の変動と課題(第14章) 8. 単位認定試験(学習時間なし)						
教育方法	講義形式とグループ学習の二つの方式をミックスして授業を進めます。教育学の知識、技法の定着よりも、それを使って、自分なりに教育問題を整理し、分析し、他者に語りかける力を養える授業をめざします。						
履修上の助言	教育学を学ぶということは、ある意味では、文化や他者との応答を開始することに他なりません。リラックスした雰囲気の中で、参加者（講師、受講者）一人ひとりの語りに耳を傾け、他者や自己と対話する時間にしたいと思います。						
テキスト 参考書	【テキスト】 授業時の配布プリント 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 【参考書】 高橋勝 『学校のパラダイム転換』 川島書店 高橋勝 『文化変容のなかの子ども』 東信堂						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護と外国語	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30 時間	3 年	前期
目的	基礎英会話を中心に、書く英語よりも話す英会話を大切に、世界の共通語である英語を学習することによって、英語で自己表現することで「伝える・受け止める」人間関係の基本を学ぶ。また恥ずかしがらずに自分の中にあるタレント性に気づき、伝える・受け取ることを学ぶ。						
到達目標	1. 英会話の基礎を学習する。 2. 基礎英語となる言葉や文法を使用する。 3. 看護師として必要な言葉を英語で表現する。 4. 医療現場に必要な簡単なコミュニケーションをする。						
授業計画	1. 英会話の心構え / ABCの発音 / PHONICS 2. 自己紹介 / Question & Answer 3. 始まりのあいさつ / 終わりのあいさつ / 始まりの挨拶から始まるQUESTIONS 4. 4パターンの基礎英語/Yes&No, OR, W&H, Statement 5. 色々なQuestionの練習 6. 使えるナースの慣用句+文章を英語で作る。 7. ナースのための単語+文章を英語で作る。 8. 外国人を助ける英語での問診+文章を英語で作る。 9. ペアでのミニ英会話 (ドクターVSナース) 10. ペアでのミニ英会話 (ドクターVS患者) 11. ペアでのミニ英会話 (ナースVS患者) 12. ペアでのミニ英会話 (患者VS医療事務員) 13. 3分スピーチの台本を作る。 14. リハーサル (3分自己紹介スピーチ) 試験前 15. FINALテスト 英語での自己紹介 3分スピーチ						
授業方法	基礎英会話を中心に会話を大切に学習を進めます。 英語を使つてのロールプレイを行います。						
履の修助言	・授業中はなるべく日本語を話さないこと ・小グループでの授業形態を取るため、チームワーク・協調性が求められる。そこで、一人ひとりが自覚を持って授業に参加すること。 ・講義初日に付けた英語名で講義に出席する。 ・講義のまとめとして、英語でのプレゼンテーションを行う。						
参考書 テキスト	HBRSオリジナルテキスト「English Conversation For Nursing」 参考文献 随時提示						
評価方法	SHORT 英語劇 授業態度 出席状況 提出課題 (HBRS オリジナルテキスト) で総合的に評価						

学科目 (単元)	生活者の理解と ソーシャルマナー	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	・看護の基礎には、看護の対象者の「生活」に焦点をあて、生活を調整するという考え方があり、「人の生活とは何なのか」を知ることが重要である。その上で、これまで当たり前のように送っていた生活が病気や障害によってできなくなった時、どのような支援が必要になるかを、看護師として考えられる力が求められている。そのため、人の生活を総合的に捉える力を身につけることを目的とする。 ・近年療養する場所は変化しており医療接遇は学生時から身につける必要がある。 ソーシャルマナーは社会人としての価値観と人間性の基盤であり、人間関係の原点をなすものである。社会で通用する「当たり前のことを当たり前でできる力」である、礼儀、立ち居振る舞いを身につけ、看護実習や普段の生活に活かせることを目的とする。						
到達目標	・「生活者」の視点に立って生活の構成要素を理解し、人の生活を総合的に捉える。 ・病気や障害によって生活にどのような影響が生じるのか、自分で生活を整えられない際にどのような支援が求められるのかを想像できる力を身につける。 ・医療者として必要なマナーを説明する。 ・正しい言葉遣い、身だしなみ、立ち居振る舞いを実践する。						
授業計画	- 生活・家計 生活とは／家計とは - 食生活（１） 望ましい食生活／食生活と健康 - 食生活（２） 食品のおいしさ／食品の安全性 - 衣生活（１） 衣生活と健康／快適な衣服 - 衣生活（２） 衣服管理 - 住生活（１） 住生活と健康 - 住生活（２） 住環境の整備／家事とは - 健康弱者の生活（１） 健康弱者の生活を考える - 健康弱者の生活（２） 健康弱者の生活の支援について まとめ - マナーの概念、医療機関における接遇、自己分析 - 敬語の使い方、言葉遣い - あいさつ、表情、身だしなみ、立ち居振る舞い - 来客対応、ビジネス文書、メールの書き方 - 電話のマナー、実習先でのマナー - 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	スライドと配布資料を用いた講義を基本とします。 必要に応じて、ペアワークやグループワークによる演習を行います。 ソーシャルマナーでは演習を多く行います。						
履修上の助言	普段何気なく送っている自分自身の生活を振り返りながら講義を受けることで、授業内容についての理解が深まります。普段からマナーに気を付け、意識して身の回りことは自分で行う、授業で学んだことを日々の生活で実践するなど、日常の中での生活体験をぜひ積極的に蓄積してください。						
テキスト 参考書	パワーポイント等を印刷した資料で講義を行うため、テキストは指定しません。 参考書は必要に応じて紹介します。						
評価方法	筆記試験・提出物						

学科目 (単元)	生命医療倫理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	後期
目的	ここ数十年で生命操作技術が飛躍的に向上し、また医療者と患者（及び家族）との関係が変化したことによって、伝統的な職業倫理だけでは必ずしも対応できないような問題が生じている。今日、生命倫理（あるいは医療倫理）と呼ばれる分野で何が問われているのかを概観する。						
到達目標	・生命と医療をめぐる倫理的問題について議論するための知識を身に着ける。 ・自分の考えをまとめ、人に伝える方法を習得する。						
授業計画	1. 倫理学の基礎 2. 医療倫理の誕生と展開 3. 脳死と臓器移植 4. 脳死と臓器移植 2 5. 安楽死 1 6. 安楽死 2 7. 生殖補助医療 1 8. 生殖補助医療 2 9. 人工妊娠中絶 10. エンハンスメント 11. ロングフルライフ訴訟 12. ケアの倫理 1 13. ケアの倫理 2 14. 全体のまとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義 グループワーク（状況による）						
履修上の助言	人間の身体や生命にかかわる諸問題、あるいは現代の医療が直面する数々の倫理的難問について、自分で考えてみましょう。その際、視点をひとつに固定するのではなく、医療従事者、患者本人、家族などさまざまな立場を想定することが大切です。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 看護倫理 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	発達心理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	前期
目的	ひとは生まれてから亡くなるまで、その生涯全体を通して成長し、変化していく存在である。この生涯全体を通して絶えず生じる心身の変化を発達と言う。私たちが1年間で四季に分けてその経過を理解するのと同じように、ひとの発達的な変化もある程度大きなまとまりに分けることで理解がしやすくなる。 本講義では、このような発達心理学の知見を学ぶことで、ひとの人生のさまざまな時期における発達的な特徴を理解することを目的とする。						
到達目標	・発達心理学の主要な理論を知り、その特徴や主な知見について理解する。 ・ひとの発達の各段階における特徴を理解する。 ・各発達段階の理解を通じて、ひとの生涯全体を見通す視点を持つ。						
授業計画	1. はじめに 発達心理学とは何か 2. 看護における発達心理学 3. 乳児期・幼児期前半の発達 4. 幼児期後半・児童期の発達 5. 思春期/青年期の発達 6. 成人期・老年期の発達 7. まとめ 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義						
履修上の助言	講義を中心にすすめていきますが、記入式のワークや小グループでの共有、クラス全体で共有のための発表なども行います。 受け身にならず、積極的にご参加ください。						
テキスト 参考書	テキスト：看護のための人間発達学 医学書院 参考書：エピソードでつかむ生涯発達心理学 ミネルヴァ書房 図でよむ心理学 発達 福村出版						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床心理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	全期
目的	心理学の基本的理念を理解し、人間のこころを理解するための基礎的な知識を身につける。 また、各発達段階において臨床心理学の視点から、心のとらえ方・考え方、さらに心の問題に対する援助の方法を学ぶ。						
到達目標	・自己分析を通して習得した客観的な尺度をもって患者の人格を理解する。 ・患者のQOL向上の支障となる問題行動の発達の・心理的な背景を洞察する。 ・患者の置かれた環境に配慮した心理的支援を提案し、自らも実践する。						
授業計画	1. 臨床心理学とは 2. 心理アセスメント（人格をどう捉えるか） 3. 心理アセスメント（心理テストの使い方） 4. 心理アセスメント（自我形成の客観的理解） 5. 心理アセスメント（対人関係の特徴を知る） 6. 心理アセスメント（燃え尽きやすさの傾向と予防） 7. 心理アセスメント（観察訓練・面接法の実践） 8. 臨床心理学の実践（人生の心理的発達課題） 9. 臨床心理学の実践（自己像の崩壊 ― 見立ての視点） 10. 臨床心理学の実践（自己像の再生 ― 支援の方針） 11. 心理療法概論（精神分析・来談者中心療法など） 12. 心理療法概論（認知行動療法・集団療法・芸術療法など） 13. 患者と家族の心理（家族療法のアプローチ） 14. まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義 演習						
履修上の助言	臨床心理学は、座学による知識の習得だけで終わる学問ではありません。 看護の現場で使える「スキル」を身につけていただくために、さまざまな演習を通して、体験的に学んでいただきたいものがたくさんあります。 演習はその時限りしか体験できない時間と考えて、積極的に参加してください。						
テキスト 参考書	新体系 看護学全集 基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社						
評価方法	筆記試験 レポート						

学科目 (単元)	現代日本と 多文化の理解	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	グローバル化の中、文化的背景が異なる国の人々が共に社会生活を営むようになり、看護実践の場でも異なる文化的背景を持つ人々へのケアの提供が求められるようになってきている。 現代の日本においても、地域特有の風俗や習慣があり、様々な背景を持ちながら生活している人々がいることを理解し、身近にある「多文化」を知ることが必要である。 本科目では、「人間とはいかなる存在であるか」という問いをもちつつ、多種多様な文化とその価値観への理解を深め、対象者の文化を尊重した看護の在り方について考えることにつながる基礎知識を学習する科目である。						
到達 目標	・ 日本の文化の基本的な性格を説明する。 ・ 宗教のもつ世界観について説明する。 ・ 身体という観点から異なる文化を理解し、違いを説明する。 ・ いのちという視点から異なる文化を理解し、自らの考えを述べる。						
授業 計画	1. 多文化を理解するために：文化人類学とは何か、フィールドワーク 2. 現代日本の中の多文化 3. 生活の中の風俗や風習：通過儀礼 4. 宗教と世界観 1 5. 宗教と世界観 2 6. 文化と身体 7. 医療と人類学 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育 方法	講義（文化と身体の際は、一部実習を含む）						
履修 上の 助言	自身の日常生活を一度、第三者的な視点から観察してみよう。 クラスの友人と、それぞれの地元の話をしてみよう。						
参考 書 デキ スト	系看 基礎分野 文化人類学 医学書院						
評価 方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護と社会学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	現在、個人レベルではアイデンティティの揺らぎ、コミュニケーション能力の全般的な低下、離職率の増加などが社会問題として取り上げられています。また、中間集団のレベルでは、これまで社会の秩序を担ってきた家族、学校、会社などの集団や組織の機能不全が見られます。より全体的な社会レベルでは、高齢化、人口減少、環境問題など、これから対処していかなければならない課題が山積しています。現在、多様なレベルで発生しているこれらの問題をどのように理解し、どのように自分の生き方を選択していけばよいのでしょうか。 この授業の目的は、このような疑問を、社会学の議論を軸に解説、解決していくことにあります。						
到達目標	社会学の基本的な考え方や概念を通して、自己・自我の成り立ち、身近な人間関係やコミュニケーションのあり方、学校・会社・地域社会などの集団や組織の仕組み、さらに皆さんが置かれているより大きな社会状況を理解してもらうことが目標になります。						
授業計画	1. 授業ガイダンス / 社会学とはどのような研究領域なのか。 2. 相互作用論 (1) 役割理論 3. 相互作用論 (2) シンボリック相互作用論 4. 相互作用論 (3) コミュニケーション論 5. 現代社会の「私」の特徴 ⇒現代社会における「私」という存在を「自我論」を紹介しながら解説します。 6. 現代の労働を考える ⇒現代社会の「労働」をめぐるさまざまな問題を各種データに基づき解説します。 7. 労働と自己実現 ⇒現代の「労働」と「自己実現」をめぐる問題を取り扱います。 8. 集団の社会学 ⇒社会学における「集団」や「組織」について解説します。 9. 現代社会の集団の特徴 ⇒現代社会の「集団」の特徴とその問題点などについて解説します。 10. 地域社会と地域医療の問題 ⇒地域社会と地域医療をめぐる問題を解説します。 11. リサーチリテラシーを使って現代社会と人間関係を読み解く 12. 家族の歴史的変化と家族観の変化 13. 現代家族の諸問題①少子化と家族 14. 現代家族の諸問題②家族関係の視点から高齢者犯罪を学ぶ 15. 学習時間あり・単位認定試験 *なお、内容については受講生の関心に応じて変更することもあります。						
教育方法	基本的にパワーポイントを使用した講義形式を予定しています。また必要に応じて、視覚映像などを用いることもあります。						
履修上の助言	現在の社会にはどのような問題が発生しているのかニュースや新聞等を通して把握しておいてください。						
テキスト参考書	テキスト 講義時の配布プリント 参考書 ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	人間関係と コミュニケーションⅠ (講義・学内研修)	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	【講義】 臨床では、医療スタッフ同士、医療者と患者など、異なる立場の人々との異質性や多様性を尊重し合うコミュニケーションが求められます。また、看護師（対人援助職）として良好な人間関係を構築するためには、相手の気持ちを我がことのように感じとれる温かみのあるコミュニケーションスキルや、率直に伝え合いながらもさらに人間関係がよくなるコミュニケーションスキルを身につけることが必要になります。 本講義は、より良い相互関係を築くコミュニケーションの基礎の理論と実践を学び身につけることを目的として学習をしていきます。 【学内研修】 看護職と患者との関係を築くうえで、両者の間に確かな信頼関係が不可欠なのは言うまでもない。しかし、ともすればこれまでの生活史の中で、対人関係を築くことの難しさばかりが記憶に残り、他者への共感や自己開示などへの動機づけを損ねてしまっていることが少なくない。これを性格の表れとして放置してしまうと、実習はおろか看護の現場での円滑なコミュニケーションに支障が生じる恐れがある。他者の意思を冷静に受け止め、自分の言葉で意思を伝達する力を養うことによって、関係づくりへの動機づけを体験的に高めていくことを目的とします。						
到達 目標	・ 相互関係を大切にしたコミュニケーションの基礎知識を獲得する。 ・ 相互関係を大切にしたコミュニケーションの基礎スキルを身につける。 ・ 他者の意思を冷静に受け止め、自分の言葉で意思を伝達する力を養う。 ・ 関係づくりへの動機づけを体験的に高めていく。 ・ クラスメイト・講師との円滑なコミュニケーションを取る。 ・ 既成の自己像をあらためて見直すために研修に参加する。						
授業 計画	【講義】 1. より良い相互関係を築くコミュニケーションとは ガイダンスおよび概論 2. こころを通わせるコミュニケーションスキル1 非言語コミュニケーションとアクティブリスニング 3. こころを通わせるコミュニケーションスキル2 聞くこと、聴くこと 4. こころを通わせるコミュニケーションスキル3 感情の理解と自己表現 5. こころを通わせるコミュニケーションスキル4 相手に伝わる自分も相手も OK な伝え方 6. こころを通わせるコミュニケーションスキル5 意見や考えの違う人と率直に伝えあう 7. 自己概念と自己意識 自分を知ってコミュニケーションに活かす 8. 自己マスタリーとストレス対処 ストレスと上手に付き合う行動計画のたてかた 9. 保健行動とプロフェッショナルの面接技法 【学内研修】 10. 人間関係づくりの基礎 —— 信頼関係を築く 11. 価値観の違いを越えて —— 無条件の共感とは 12. 傾聴訓練 —— 相手の心を開くために 13. 非言語の意思疎通 —— まず五感を研ぎ澄ますことから 14. 自己開示の自信をつける —— 想いを伝える楽しさを知る 15. 【講義】 学習時間なし単位認定試験 【学内研修】 課題提出						

教育方法	講義および自己学習形式（演習シート）、演習形式（ペアワーク、グループワーク）など多様な学習形式を用います。 体験学習・ロールプレイ・ディベート
履修上の助言	講義には多くの演習が含まれるため、みなさんの積極的な参加姿勢を期待しています。 また、日常の人間関係の中で、本講義の学びを活用し、より良い関係を築くコミュニケーションを実践してみてください。 研修では、小人数でコミュニケーション・スキルを磨くワークショップを行います。体験に基づいて学習する、というパターンを繰り返していきます。対人支援職を志望する強い気持ちと、良好な人間関係を築けるという自信とは、必ずしも一致するわけではありません。後者に苦手意識を抱き、不安に駆られる人も少なくありません。その一方で、後者に独りよがりで過剰な自信を持ってしまって、大きな失敗をする場合もあります。既成の自己像をあらためて見直す覚悟で、参加してくださることを望みます。
テキスト 参考書	オリジナルテキストを使用する。 参考書・参考資料等については、授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢やワークブックの課題、小テストによって総合的に評価する。(80%) 研修における課題のレポート (20%)

学科目 (単元)	人間関係と コミュニケーションⅡ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目 的	あらゆる看護実践に伴うコミュニケーションを行うにあたり、看護師は相手（患者、患者家族、医療スタッフ）の考え方や価値観の背景にも配慮した丁寧なコミュニケーションを意識することが必要となる。また看護師自身もかけがえのない一人の人間として、自己の価値観やコミュニケーション上の傾向を率直に振り返り、自己理解を深めていくことも求められる。 これらの基本姿勢は、苦手な相手や葛藤場面において、問題から目を背けず、肝心なことを粘り強く伝え、納得しあえるコミュニケーションを実現する上でも不可欠であり、患者の安全、安楽、成長、発達を支える環境づくりの基礎となる。 本講義では、臨床で起こりやすい葛藤場面を想定し、患者やその家族の心が満足する自己決定や人生選択、医療スタッフとのより良い関係を支えるコミュニケーションの方法を学ぶ。						
到達 目標	1. 自己理解を深め、自己の特性を踏まえたコミュニケーションのあり方を考え、理解する。 2. 立場によって異なる多様な価値観の構造について理解する。 3. リスニングスキル、アサーションスキルに基づいた率直で積極的な対話法を身につける。 4. コミュニケーションに関する知識や技法を、多様な看護実践のシーンに重ねて理解する。						
授 業 計 画	1. 自己理解と看護実践①—自分のコミュニケーションの癖を知る 2. 自己理解と看護実践②—自己や他者の特性を踏まえたコミュニケーション 3. 思考を深めるワーク①—対立が及ぼす影響 4. 思考を深めるワーク②—対立場面の構造 5. 多様な価値観を踏まえた看護実践①—人それぞれの価値観とは 6. 多様な価値観を踏まえた看護実践②—リスニングスキルへの応用 7. 患者・患者家族の理解—言い出しにくいことを伝える 8. 単位認定試験						
教育 方法	既習の基本スキルを復習し、社会学や哲学的な視点を踏まえたコミュニケーション力を養う。講義および自己学習形式（演習シート）、演習形式（ペアワーク、グループワーク）など多様な学習形式を用いる。						
履 修 上 の 助 言	本講義には多くの演習が含まれるため、みなさんの積極的な参加姿勢が必要となる。理論的な理解だけでなく、臨床場面で本講義での学びをどう活用するかをイメージしながら、受講すること。 体験を通して「できる」という実感により自己効力感を高め、うまくいかなかった場合でも、成功につながる多くのヒントを得ていると意識し前向きに学ぶこと。						
テ キ ス ト 参 考 書	オリジナル教材を使用します。						
評 価 方 法	3 分の 2 以上の出席を評価の前提条件とする。 授業への参加姿勢やレポート課題（50%）、最終試験（50%）によって総合的に評価する。						

学科目 (単元)	健康と運動	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	後期
目的	・身体活動や運動習慣の必要性を理解する。 ・健康にとって必要な運動の効果や身体不活動の影響について理解する。 ・慢性疾患の予防のための運動処方についてその基礎を学ぶ。 ・自らの「健康」を守り、よりよく生きていくために運動習慣や身体活動がどのように役立つかを考える。						
到達目標	・生活習慣と健康の関係と理解する。 ・運動による生活習慣病の予防が医療に貢献することを理解する。 ・運動習慣と運動不足（身体不活動）が健康に与える影響について理解する。 ・体力と健康の関係について体力テストの結果を見ながら理解する。 ・生活習慣病予防のための有酸素性運動の処方を心拍数などを実際に用いて理解する。 ・生活習慣病予防のためのレジスタンス・トレーニングの処方理解する。 ・減量することの必要性について考える。 ・運動がどのように体重に影響するかについて理解する。 ・減量のためにどのように運動を行ったらよいかを考える。 ・減量に必要なエネルギー消費量・運動量の計算方法を理解し使うことができるようになる。 ・加齢による体力への影響や高齢者にとっての運動について理解する。 ・運動によるがん予防の効果やがんサバイバーシップにおける運動の意義を理解する。 ・パラリンピックスポーツから障がいと運動について考える。 ・女性にとっての運動の価値について考える。						
授業計画	1. 生活習慣と健康の関係 2. 医療と運動～運動は日本の医療に貢献するか？ 3. 健康と運動～なぜ私たちに運動が必要なのか？ 4. 運動不足や身体不活動の影響を考える 5. 生活習慣病予防のための有酸素運動の処方 6. 生活習慣病予防のためのレジスタンス・トレーニングの処方 7. なぜ体重は増えるのか・減るのか 8. 運動による減量効果～運動をすれば体重は減るのか？ 9. 減量に必要なエネルギー消費量・運動量を計算する 10. 体力と健康の関係～体力があると健康なのか？ 11. 加齢と運動～年を取ると体力は低下するのか？ 12. がん運動～がんサバイバーシップにおける運動の意義 13. 障がいと運動～パラリンピックスポーツから障がいと運動について考える 14. 女性と運動～体力に男女の違いはあるのか？ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・演習						
助言・履修上の	医療従事者として他者の健康を保持するためには、自分を大切にして自身の健康を保っていく必要があります。講義で学んだことを自分自身の運動習慣・健康管理に反映させ、心身の健康を守っていきましょう。						
テキスト参考書	パワーポイントを印刷した配付資料で講義を進めるため、テキストは指定しない。						
評価方法	筆記試験						